

ソーシャルアクションアカデミー 2024活動報告

2024年12月
渋谷4 居場所チーム

報告内容

1. チームメンバー
2. チームの課題認識と取り組み内容
3. アクション
 - ①居場所探訪(千駄ヶ谷商店街探訪)
 - ②居場所探訪(Death フェス / 傾聴ボランティア)
 - ③居場所課題対応(笹塚十号のいえ 季節イベント)
 - ④居場所課題対応(笹塚十号のいえ 夜イベント)
4. 活動全体での成果
5. 活動を通じての所感

1. チームメンバー

	氏名	主に担当したこと
1	安東 禎志	各団体活動インタビュー・十号のいえ 夜イベント
2	久保 豊	十号のいえ 夜イベント
3	戸田 花恋	十号のいえ 季節イベント
4	西瀬戸 伸子	千駄ヶ谷商店街探訪・全体会計
5	花輪 風花	十号のいえ 季節イベント・夜イベント広告
6	福田 恵	十号のいえ 夜イベント
7	矢部 竜也	連絡係・全体調整

2. チームの課題認識と取り組み内容

課題認識

- ✓ 日々の生活で生じる課題を、自分だけで抱え込まず、繋がりのある社会が求められる中、地域コミュニティと結びつきを持たない人が、繋がりを持つ場＝「居場所」が必要
 - ✓ 特に「こども」と「高齢者」の間の世代で、居場所が不足している。
- ⇒居場所を作るには、また既存の居場所と結びつけるにはどうしたらいいか

取り組み内容

- ✓ 「居場所」の実態把握とどんな形での居場所が作り出せるか検討
- ✓ 渋谷区内唯一の常設の居場所“笹塚十号のいえ”に立ち寄る人の多様化を支援
子育て世代等、普段接点のない人々が立ち寄るきっかけや仕組みを考える。
【取り組み案】
 - ・“笹塚十号のいえ”にて、取り組みきれていないことの支援（イベント開催 等）

3. アクション①—居場所探訪（千駄ヶ谷商店街探訪）

取組み内容 ・狙い

渋谷区は大きく分けて3つの特徴のあるエリアがあると言われているが、まず最初に地域の状況を肌で感じてみようと、その一つである千駄ヶ谷地区を、地域の実情に精通し、まちづくりを積極的にリードされている千駄ヶ谷大通り商店街振興組合 岡崎千治理事長にご案内いただき歩いてみた。

当日の様子

同地域内には国立能楽堂、将棋会館、鳩森八幡神社、津田塾大学、スポーツ関連施設等、文化的な施設やスポットが多くあり、また、徳川家ゆかりの歴史的な建造物等のほか、新しいデザインやアパレル系の会社が点在するなど多様な文化や外国人を含めた人々が地域を構成していることが分かった。また都会のど真ん中にもかかわらず、道ですれ違う住民の方々が挨拶をかわし、しばしば立ち止まって雑談をされている様子が印象的だった。

気づき・ 得たもの

人が集まる場所やそのための仕掛けがいくつもあり、例えば、鳩森八幡神社や明治公園を中心に人々が自然に集まるようなイベントが催されていた。また、同神社には絶妙な配置でベンチ等が置かれ、一人で来てもくつろげる場所となっていた。更には歩道にプランターを置き皆で草花を育てて日頃からちょっとした会話ができるようにするなどして、訪れる人も含めて地域に温かな交流や結びつきが生まれ、地域全体が住みやすい居場所となっていることが感じられた。

3. アクション②—居場所探訪（Death フェス / 傾聴ボランティア）

取組み内容 ・狙い

各種壁打ちの中でご紹介いただいた方々とミーティングを開催。活動をおしえていただくとともに、笹塚十号のいえや明治公園祭りでのイベント共同開催の可能性を模索。

デスフェス様

ポップに死について考える「Deathフェス」開催

渋谷リッスン様

渋谷区で活動する傾聴ボランティア団体

当日の様子

「死」というテーマの引きの強さや、Deathフェス以外の活動（デススナック、入棺体験）についてお話を伺う。イベント共同開催も趣旨が折り合うのであれば前向きとお返事をいただいた。

「まずはすべてを受け入れる」という傾聴の心得や、高齢者対象にグループではなく一対一での対話を大切にしながら活動されているお話を伺う。普段の活動とはスタイルが異なるが、協力可能かもしれないご意見をいただいた。

気づき・ 得たもの

「死」は強力なコンテンツである反面イベント開催場所を選ぶ面があり、今回は困難と判断

明確な協働イメージのすり合わせができないまま日程調整も難航し実現せず

- ・興味を持ち、協力的な態度で臨んでくださる方々が多い！
- ・先方の信念・思いをよく理解し、きっちり方向性を知り合わせる事が大切

3. アクション③—居場所課題対応（笹塚十号のいえ 季節イベント）⁸

取組み内容 ・狙い

笹塚十号のいえで開催できていなかった季節企画としてハロウィンのイベントを企画・実施。笹塚十号のいえのニーズを満たすとともに、商店街を通る子どもたちを呼び込み、笹塚十号のいえの認知を高める目的で開催。イベント内容は、簡単な工作体験とお菓子の配布。同時に同行者(保護者)へのアンケートも実施。

当日の様子

開催時間3時間半のうちに約30名の方に参加していただけた。主な参加者は幼稚園生から小学校低学年の子どもで、ハサミを扱う作業など、適宜こちらでサポートしながら一緒に工作を楽しんだ。笹塚十号のいえの中だけでなく、店先にも机と椅子を設置し、子どもたちが工作に取り組んでいる様子を商店街を通る同じ世代の子どもに見てもらうことができ、また常連の方が呼び込みに協力してくれたおかげで、絶えず子どもたちが工作をしたい、お菓子が欲しいと関心を持ってくれた。

気づき・ 得たもの

今までほとんど開催されてこなかった季節企画や子ども向けの企画を実施したことで、これまで笹塚十号のいえに来たことがなかった方々が参加してくださり、笹塚十号のいえがその方々の居場所になる第一歩に貢献できたように感じる。また、保護者の方々へのアンケートを通じて、今回のような工作を取り入れた子ども向けイベントを今後も開催してほしいという需要があることが分かった。

3. アクション③—居場所課題対応（笹塚十号のいえ 季節イベント）



HAPPY HALLOWEEN

おばけ&かぼちゃの
ハロウィンお菓子バッグ作り！

2024.10.31
15:00-18:30

簡単ハロウィンクラフト！
かわいのお菓子バッグを作って
お菓子をたっぷりゲットしよう♪

ソーシャルアクションアカデミー 2024 渋谷チーム4

The poster features a purple background with a white ghost holding a brown gift bag on the left. Scattered around are various colorful candies and bags. The text is in a playful, hand-drawn style.



→
イベント中の様子



↑笹塚十号のいえに掲示した広報ポスター

3. アクション④—居場所課題対応（笹塚十号のいえ 夜イベント）

取組み内容 ・狙い

ねらい:地域の方々(特に中高年層)と居場所との出会いを推進することを目的として、笹塚十号のいえで開催出来ていない夜営業にチャレンジし、笹塚十号のいえへの訪問者多様化を支援。

概要:11月26日(火)18:30~20:30において、1日限定のスナックをOPEN
お酒200円/杯、ソフトドリンク100円

当日の様子

通常より照明を暗くし、テーブルにはキャンドルライトを置き、BGMは懐かしの歌謡曲。お客さんは常連の方約15名が開店から閉店まで、我々スタッフも含めてちょい飲みを楽しんだ。笹塚十号のいえの前で呼び込みを試みるも、皆さん関心は示すものの残念ながら新規の方の来店はなかったが、お酒がある夜営業は皆さん初めてでもあり、いつもと違う雰囲気ですぐ笑顔で楽しそうであった😊

気づき・ 得たもの

夜営業を実施することにより、笹塚十号のいえの存在を知らなかった方々がその存在を知るきっかけを創ることが出来たが、一過性のものでなく継続して実施していくことが必要と感じた。今後の新たな繋がり場の場を創出する一助になればと思う。居場所に決まりはなく多様なものが存在している。運営者の想いや地域・利用者のニーズを確認しながら進めることが大事だと感じた。

3. アクション④—居場所課題対応（笹塚十号のいえ 夜イベント）



**1日
限定**

ちょっと寄り道
おひとりさま大歓迎

スナックOPEN!

11/26(火)6:30PM~8:30PM
場所：笹塚十号のいえ

お酒：200円/杯
ソフトドリンク：100円
おつまみの駄菓子は
食べ放題!

主催
ソーシャルアクションアカデミー2024
渋谷チーム4



4. 活動全体での成果

活動	定量的な成果+定性的な成果(今活動がどういった影響を与えたか 等)
十号のいえ ハロウィン イベント	定量面 : 当日企画参加者 30名ほど
	定性面 : 参加者のイベントおよび十号のいえへの認識に関する意見収集 【ご意見】 <u>①親子連れで、主にはじめて十号のいえを訪れた方々</u> (イベントについて) <ul style="list-style-type: none"> ・こどもが集中するイベントで開催してくれることは、親としてありがたい。 ・地域でこういったイベントを行ってくれるのはいい。 (十号のいえについて) <ul style="list-style-type: none"> ・場所は知っていたが、初めて入った。・ここは入りやすい。こんなところはあまりない。 ・子供向けイベントがなければ、入ろうとは思わなかった。 <u>②複数回 十号のいえを利用されている方々</u> (十号のいえに来るようになったきっかけ) <ul style="list-style-type: none"> ・たまたま立ち寄った・社協に紹介された ・近所に住んでいた (十号のいえについて) <ul style="list-style-type: none"> ・人に会えるのがいい。・居心地がよくて時々来る。・知り合いができて通うようになった。

⇒初めて訪れた方々から、訪れるキッカケとしての「子供向けイベント」の威力を認識できた。
 また複数回利用されている方々から、その方々にとって「居場所」となってきた過程を伺えた。

4. 活動全体での成果（十号のいえ ハロウィンイベント 参加者意見収集結果）¹³

親子連れ（ほぼ初めて十号のいえに来た方々）

対象者属性	イベント参加きっかけ	希望イベントコメント	十号のいえや居場所について
5歳児 母親	通りがかりに(常連の)おじいちゃんに誘われて	子供向けイベント 子供が集中できるとその間ゆっくりできる。 自分が楽しむというのはあまり考えられない。	
3歳児 祖父母	買い物に来たら、ハロウィンをやっていたので孫が喜んで	子供向けイベント クリスマスイベント	このようなところは珍しい。ここは入りやすい。こんなところはあまりない。普段やれないことをやれるのがいい。 これからもやってほしい。
4歳児 母親	通りすがり	子供向けイベント。工作やゲームなど。 子供が集中してくれるとありがたい。	以前もシャボン玉イベントで来たことがあるが、子供向けイベントでもないと思うと入ろうとは思わなかった。(中にいる方々の輪を乱す気もない)
4歳児 母親	通りすがり、看板見て入った	子供向けイベント 今回のようなイベントがうれしい	始めて入った。 仕事関係で存在だけは聞いたことがあった。
3+5歳児 母親	通りがかりに(常連の)おじいちゃんに誘われて。よく来る	子供向けイベント。工作系。地域の中でこう言ったイベントをやってもらえるといい。	
5歳児 母親	インスタでポスターを見た。幡ヶ谷在住。イベントがあると来る。	子供向けイベント。子供がこういうものが大好きなので楽しめるものもいい。	去年幡ヶ谷の商店街のハロウィンに行った

4. 活動全体での成果（十号のいえ ハロウィンイベント 参加者意見収集結果）¹⁴

日々十号のいえを利用されている方々

十号のいえに来たきっかけ	希望イベントコメント	十号のいえや居場所について
<ul style="list-style-type: none"> ・仕事と家と往復に物足りなさがあった 	<ul style="list-style-type: none"> ・落語会 ・月に一度映画会 ・料理を作ったり 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と会えるのがいい ・人生の先輩の話が聞ける仕事が終わったらほぼ来ている(16:30~) ・友人と100円でお茶飲める(一人でも) ・自分の居場所⇒みんなの居場所の一部になっている ・人間関係が密になってきて、苦手な人、好きな人ができて、それをどうおさめるか
<ul style="list-style-type: none"> ・もともと野菜を買っていた。近所に住んでいて買い物について 	<ul style="list-style-type: none"> 映画、シニアの会 ・バンドに来てほしい ・大きなTVあればいい ※(スタッフの方)TVがあるとTVばかりみてしまうのでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントはわからないがやっていたら寄る ・今日も二人で知人と打ち合わせてきた ・今後の予定表があるといい ・WiFiが使えることを知ってきた人がほかにも一人 ・十号は毎日あるわけではないので、同じような居場所が近所であれば行きたい
<ul style="list-style-type: none"> ・社協に紹介されて 		<ul style="list-style-type: none"> ・しばらく通っていたら、また来るよう声をかけられた
<ul style="list-style-type: none"> ・たまたま立ち寄って 		<ul style="list-style-type: none"> ・居心地がよくて時々来る。3回目くらい今日は散歩中だったが、つい寄って長居してしまった
<ul style="list-style-type: none"> ・十号のいえができてから空間が気になって来た 	<ul style="list-style-type: none"> 子供が来るのも知っているので子供向けイベントがいいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣町に住んでいるが、知り合いができて通うようになった

4. 活動全体での成果

活動	定量的な成果+定性的な成果(今活動がどういった影響を与えたか 等)
十号のいえ 夜イベント	<p>定量面 : 当日企画参加者 15名ほど</p> <p>定性面 : 参加者のイベントへの意見収集 ※イベント参加者は、よく十号のいえにいらっしゃる方々でした</p> <p>【ご意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いに話はしていたけど、これまでと違う形で会話するいい機会だった。 ・別の一面に触れられて新鮮だった。・またやってほしい。・忘年会みたい。 ・ここでアルコール類を出してくれるんだ。

⇒参加された方々のあいだでの結びつきの強化や「十号のいえ」の多様面さを作り出せた。

各団体との コミュニケーションを通じ て	<p>定性面 : 我々を媒介し、相互に存在や活動内容を知られるきっかけになった。 今回我々がお話しをさせていただいた団体方々</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「千駄ヶ谷大通り商店街振興組合」岡崎様 ・「Death Fes」市川様・小野様 ・「傾聴ボランティアしゅがListen」(all ears/スカイミントカー) の皆様 ・「笹塚十号のいえ」戸所様 <p>⇒別の機会で、Death Fes 市川様・小野様と笹塚十号のいえ戸所様がお話しされたとのこと</p>
----------------------------	--

⇒具体的に結びつきを作れたわけではないが、我々の活動が相互認知のキッカケにはなった。

5. 活動を通じての所感

■十号のいえでのイベントについて

- ・ハロウィンイベントでの親子の話を通じ、その場を訪れるハードルを下げるためであれば、参加しやすいイベントで一度中に入る経験ができると、一つ訪問するハードルが下がるものだと気づいた。
- ・また、普段は火・木・土の11～18時半営業としている、十号のいえで夜イベントを行い、20時過ぎまで空いていて、お酒を飲み談笑している場であることを、普段閉まっている十号のいえを見ている通勤層に見せることができただけでも、場としての十号のいえの印象が少し変化させられたのではないかと考える。

⇒ある程度いろいろな層年齢層に十号のいえをアピールすることができたのではないかと考える。
ただ、十号のいえとして、チャレンジされたいとお話しされていた、読書関係、および朝活を形にできなかったのは残念。

■イベント実施の難しさ・イベントから居場所につなげていくことの難しさ

- ・具体的な対象者を想定しないことの良さ(黄色信号の人が平気な顔で来れること)と実際にイベントを行う際に、ターゲットを絞る行為が少し相反し、募集すること、呼び込むことの難しさがあった。
- ・イベント参加者が訪れた場所を「居場所」にしていくことは、人の関係性を作っていく行為で、すでに馴染んで居場所になっている人を尊重しつつ、新しい人を取り込んでいくことは絶妙なバランスが必要で、1日であるものではないということを改めて感じた。

5. 活動を通じての所感

■居場所について改めて考えた

- ・当初から、居場所というものを物理的な場所として、より強く捉えていたが、地縁や考え方、趣味、振る舞いなどいろいろな形で人は集まり、居場所をつくっており、人と人とのゆるやかでも繋がりができていることを改めて考えさせられた。

■居場所を作り出そうとするアクションの難しさ

- ・居場所を作り出そうと考える人(今回は自分たち)と 居場所を持つ方々(各団体の皆様)と 実際に居場所を必要とされる方(例えばイベント参加者) の3者の、思いや狙い、大事にすること、望むことをすり合わせることを、居場所を作ろうとする立場からやることは難しかった。
趣味や興味があることで人が集まる⇒そこが居場所になる、という流れと、居場所をつくる ⇒ ? という流れは全然違うことを身をもって体感した。

■今回の活動が成立した背景について

- ・多くの方にお時間をいただき、ご協力いただいたが、みなさん忙しい中でも協力的な雰囲気だった。人への関心が高い方々で何かやろうとしている人への感度が高く、また許容する雰囲気があった。ご協力いただきありがとうございました。

以上